

目指す 学校像		◆児童生徒と教職員の笑顔があふれる安全で安心な学校 ◆児童生徒が主体的・協働的に取組、もっと学びたいを育てられる学校 ◆児童生徒の活動が見え、児童生徒の声が聞こえる学校 ◆児童生徒も教職員もみんながほめられる、認められる、活躍できる学校 ◆地域、保護者、関係機関等と連携・協働できる魅力ある学校						
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況			
<成果> ・個別の指導計画の目標達成に向けて、教職員がそれぞれの個人目標を設定することやICTの活用した授業づくりに取り組んだ。 ・新型コロナウイルス感染予防対策として、学習内容の検討・学習環境の整備や意識向上に努め学習活動を展開した。 ・教員の専門性を考慮した校務分掌配置により、専門性を生かした指導及び業務の遂行に繋がった。 <課題> ・個別の指導計画の目標達成率の向上、ICT活用及び指導内容の工夫をとおした重度・重複のある児童生徒の指導の充実を図る。 ・業務の精選とICT活用など、業務の効率化による教師の働き方改革への取り組み。		1 個別の指導計画の目標の達成のための授業実践	①学習指導要領の趣旨を踏まえた指導の充実に努める。 ②わかりやすい、動きやすい、取組みやすい授業実践に努める。 ③授業及び校務におけるICTの活用力の向上に努める。 ④児童生徒の主体性を育てる指導体制の工夫に努める。 ⑤教師一人一人が責任をもった研究・研修に努める。		A			
		2 魅力ある学校づくりの推進	①安全安心の実現に努める。(気づく・防ぐ・守る・認め合う) ②児童生徒の手本となる態度・行動・言葉遣いをする。 ③日常的な整理整頓、清掃に努める。 ④研究・研修・会議等の持ち方、方法の工夫に努める。 ⑤校務の明確化による業務の精選に努める。 ⑥一人一人の児童生徒の自己実現のための協働体制づくりに努める。		A			
		3 社会に開かれた教育の推進	①学習指導要領の各段階の目標及び内容の視点からの学習活動の見直しと実践に努める。 ②体験や経験、本物に触れることのできる教育の実践に努める。 ③生涯を通じたスポーツや文化・芸術活動への取組に努める。 ④巡回相談、教育・就学相談の充実に努める。 ⑤児童生徒の相互理解を深めるための学校間交流、居住地交流の充実に努める。		B			
評価項目	具体的目標		具体的方策		重点目標との関連	評価	課題及び次年度(学期)への改善策	
国語 算数 数学	児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう研修し、授業の工夫に努める。		児童生徒の実態に即した年間指導計画を作成し、内容の工夫として、ICTの活用や動きのある授業展開の工夫を考える。また、校内研修と関連付け、教員同士が意見交換のできる場を設定する。		1-①③④⑤	B	B	・校内研修を通して、具体的な手立ての工夫が書かれた年間指導計画の作成や、意見交換の場の設定ができた。 ・係間での連携があまりとれていなかったのが、次年度は初期段階からよく話し合ってさらにより意見交換を行いたい。
	社会生活に生きる基本的な知識・技能の習得を図る指導計画の作成、及び授業の工夫に努める。		身近な出来事や事例、社会生活に必要な情報等を取り入れ、実際に機器を操作したり、調べたりまとめたりしながら、主体的、体験的に身に付けられる授業の工夫をする。各学年の実践を次年度につなげられるように、ワークシートや指導案を残していく。		1-①②③④	B	B	・社会・理科ともに体験的に学べるよう授業を工夫した。各学年、今年度が初めての授業となり教材準備の苦労があったかと思う。ワークシートとともに内容が引き継がれるようにしていく。
	情報化社会のなかで、ICT機器の基本的な知識・技能の習得を図る指導計画の作成、及び授業の工夫に努める。		タブレットなどの機器を操作する機会をつくり、生活に必要な情報等を見つけ、調べたりまとめたりしながら、主体的、体験的な授業の工夫をする。		1-③④	B	B	・臨時休業中でのオンライン授業では、タブレット端末を活用しての授業形態のため、使用頻度は高いと感じた。通常授業にもどり、教室での授業でも使用頻度を下げることなく使用していると感じる。今後の課題として、高等部生徒へのタブレット端末の同時購入などが必要と感じた。

各教科等	生活	学習指導要領の目標や内容を踏まえた授業の工夫、指導の充実を努める。	授業に関する情報交換を通して、学習内容の整合性や学年間の系統性、指導方法の工夫について検討する。	1-① 3-①②	B	B	・授業について略案や映像などで情報交換を行い、学習内容の整合性について随時、意見交換をすることができた。 ・年間指導計画の作成にあたっては、生活単元学習や道徳、特別活動との兼ね合いについて整理する必要がある。
	音楽	音楽に対する興味や関心を高め、一人一人が豊かに表現できる授業の工夫を努める。	学習活動の充実を図るために、児童生徒一人一人の目標を担当学年で共有し、目標に沿って実践していく。教材教具や選曲、指導方法については部や学年を超えて情報交換を行う。	1-①②④ 3-②④	B	B	・各部を一括して楽器の使用希望を募り、振り分けることで概ね混乱なく使用することができた。 ・教科書が変更になっている部・学年もあり、それに合わせて年計等も擦り合わせる必要がある。
	図画 工作・ 美術	児童生徒の興味関心に基づいた、実態に応じた具体的な支援方法を検討し、授業実践に努める。	日常生活から児童生徒の興味関心を探り、実態に応じた支援方法について情報交換をしたり、系統性を踏まえた年間指導計画を実践したりする。	1-②④	B	B	・新型コロナウイルス感染症に配慮した指導、個人情報の取り扱いについて教員間で共通理解を図ることができた。 ・作品展について、新型コロナウイルスの影響でひたひたなか市展が中止になった以外は、校外作品展・校内作品展を実施することができ、学校HPを活用して発信することができた。 ・賞状の名前を係で二重チェックしたが、間違いがあった。今後、担任が確認、入力した方が間違いない。
		児童生徒の芸術活動の経験や感性、表現及び鑑賞に関する資質・能力の向上を図ると共に、作品に関する情報発信に努める。	児童生徒の美術活動の幅を広げるために、校内展示や校外展示等への作品出展を行うと共に、ホームページ等を利用して児童生徒の作品に関する情報発信等を行う。	3-② 3-③	B		
	保健 体育	ICTを活用して運動課題の克服に向けた取り組みに努める。	運動時の様子をICT機器を使って確認し、体の使い方やフォームなど、生徒自らがどのような点を改善していけばよいか気づき、運動課題の克服に主体的に取り組めるようにする。	1-②③④ 3-③	B	B	・新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら学習を進めることができた。徐々に活動の幅も増え、児童生徒の体力向上に向けた学習を図ることができてきた。 ・来年度の活動においては、プール学習ができるよう計画を進めていきたい。その際、各関係機関から出されている指針などを参考にし、学習に抜けないよう徹底していきたい。
		各種のスポーツ大会に関する情報発信と参加に向けた計画および準備に努める。	部活動など、様々な機関と連携を取りながらスポーツ大会に関する情報をお便りなどで発信していく。また、大会参加に向けた練習を実践していく中で、スポーツに対する興味・関心を深め、卒業後も継続して運動に取り組めるような活動を展開する。				
	職業・ 家庭	よりよい生活の実現に向けて、衣食住及び消費生活にかかわる実践的・体験的な学習活動の実践を行い、生活に般化できるように努める。	各学年の連携を図り、学習内容の情報交換を通して、系統的な指導が実施できるようにする。また、他教科との関連を意識した教科横断的な年間指導計画の検討を図る。	1-①②③④ 3-①②	B	B	・学習内容について系統立てて指導ができるように、改めて情報交換を行い、確認することができた。 ・調理室や教材室の備品や教材について学期末毎に整理、整備し指導に役立てられるようにした。
			使用時ごとに、試食室及び調理室の衛生的な使用や安全管理、整備を実施すると共に、学期毎に係で再度点検を行う。	2-①③ 3-②	B		
	家庭	よりよい生活の実現に向けて、衣食住及び消費生活、環境にかかわる実践的・体験的な学習活動の実践を行い、生活に般化できるように努める。	・生徒個々のライフキャリアを意識した実現可能で実践的な授業づくりについて話し合いをもち、発信する。 ・学習内容の情報交換を通して学年間の連携を図り、系統だった指導が実施できるようにする。 ・使用時ごとに、試食室及び調理室の衛生的な使用や安全管理、整備を実施すると共に、学期毎に係で再度点検を行う。	1-①②⑤ 3-①② 2-①③ 3-②	B	B	・生徒個々のライフキャリアを意識した実現可能で実践的な授業づくりを年間指導計画に基づいて、系統だてて行うことができた。 ・情報交換や発信はできなかった。 ・試食室及び調理室の衛生的な使用や安全管理、整備を実施すると共に、学期毎に係で再度点検を行うことができた。
	職業	職業生活に必要な能力を高め、実践的な態度の育成に努める。	職業生活に活かせる実践的な清掃スキルの指導を行うために、外部講師を招き授業を行う。また、外部講師による清掃スキルを校内で共有できるようにする。	1-①②③④⑤	B	B	・外部講師による清掃講習を2回実施した。講習の内容を動画や紙面にまとめ、校内で共有できるようにした。 ・8月に研修会を行い、2学期に清掃検定を実施した。生徒の3名にマスターの認定証授与を行った。
他教科と連携し、学部を超えた職業教育（清掃スキル指導）の系統性の研究や研修会の企画、清掃検定試験の設定を行う。			3-①②	B			

特別の教科道徳	特別支援学校における道徳教育について情報の収集、実践内容の検討・整備をし、道徳の指導の充実を図る。	道徳指導への意識向上、授業実践の充実に向けて、道徳教材対応表の活用、教材や実践の紹介を行う。	1-①② 3-①③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育への意識向上を図るため、道徳教育全体計画を見直し、教職員全体に周知することができた。</li> <li>道徳指導のガイドラインの活用と見直しを継続して行うことで、系統的な指導の実践に努めた。</li> </ul>
		道徳指導のガイドラインを定期的に見直し検討する。	1-②	B		
日常生活の指導	基本的な生活習慣や集団生活をする上で必要な知識・技能を身に付けるための指導のあり方について検討し、指導内容の工夫に努める。	「日常生活チェック表」の活用方法について、年度初めに小学部職員に周知する。	1-④⑤	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活チェック表については、年度初めに周知することができた。</li> <li>ガイドラインに沿いながら着替えや食事、掃除等の指導をするにあたって、どのような方法があるかを学部間での情報交換を行うことができた。</li> <li>教材については、活用されていた。</li> </ul>
		日常生活における、着替えや排泄、食事等の指導について、各部門間で情報共有を行う。	1-② 2-③ 3-①	B		
		備品や教材の活用を推進する。	1-② 2-③	B		
遊びの指導	児童の実態に応じた指導ができるよう、指導内容の見直しを行うと共に、効果的な教材の活用を努める。	各教科との関連を踏まえ、学習指導要領に基づいた指導内容、目標となるように、年間指導計画の見直しを行う。	1-①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の発達段階に応じた指導内容となるように、次年度の年間指導計画の見直しを行うことができた。</li> <li>長期休みに活用されていない自作教材等を廃棄し、教材・教具の整理を行うことができた。</li> </ul>
		管理している備品や教材の一覧を回覧し、授業での活用を推進する。また、活用がみられない教材については、改善や廃棄を検討する。	1-② 2-③	B		
生活単元学習	学校生活や社会生活に必要な基本的な知識や技能・態度の習得を目指した指導ができるよう、新学習指導要領の観点から踏まえ、各部門で指導内容の精選や時数、及び各教科・領域との関連などの検討を行い指導の充実を努める。	高等部、小学部の新年間指導計画の運用から改めて、単元の目標、指導内容の精選、時数の検討を行い結果を反映させていく。中学部では単元内容、合わせた指導、時数などの検討や評価を行う。小学部における清掃検定を継続で実施し、その成果について情報を共有する。	1-①②④ 2-③ 3-①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部、高等部は年間指導計画に則って運用を始めた。中学部は系統性を見直し、社会・理科を生活単元学習から独立させ、新たに年間指導計画の見直しを行った。</li> <li>※年間指導計画については、各学年見直しをし、今年度学習指導部よりあった注意点を考慮しながら作成した。また高等部はコース制の廃止に伴い、年間指導計画を学年ごとに整理した。</li> </ul>
作業学習	将来を見据え、主体的に思考し、判断し、表現する力を育むことができる授業の充実と改善に努める。	個別の指導計画の目標を作業日誌に明記し、担任と担当教諭の連携により、課題及び解決のための配慮を的確に把握することで、個の力を発揮することができるようにする。	1-①② 2-⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業日誌に個別の目標を明記することで個の力を発揮することができた。更に、事後に支援の仕方について話し合い、情報を共有することが課題である。</li> <li>中学部の作業班では、タブレット端末で作業工程の写真をスライドさせながら取り組むことで、自ら考え、判断して進めることができた。タブレット端末の活用を進めていきたい。</li> <li>展示や宣伝は難しかったが、頒布活動や販売活動を通して製品の良さを発信することができた。</li> <li>やりがいをもって最後まで取り組むことができ、適性を知ることができた。次年度の作業や将来の仕事選びの一助となった。</li> </ul>
		作業内容の見える化（作業手順書の表示）と製作過程における改善力と発展力を促す言葉掛けをすることで、自ら考え、的確に判断しながら自分で作業を進められるようにする。	1-②④ 2-⑥	B		
		発信力の向上（取り組みの紹介や製品展示・宣伝方法）により、自己表現力を高められるようにする。	1-③④ 2-⑥	B		
		作業活動をとおして、将来の自己の適性について考えられるようにする。	2-⑥	B		
特別活動	児童生徒の実態に応じた指導計画を作成するとともに、授業の充実・改善に努める。	全校集会や各部の集会、委員会、生徒会活動の充実を図り、児童生徒の主体的・協働的な活動を促し、学校生活を豊かに楽しいものとするよう支援を行う。	1-①③ 1-③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全3回の全校集会を行った。係内で感染症対策や生徒が主体的に企画運営や楽しい活動となるかを考えることができた。</li> <li>委員会活動やクラブ活動など児童生徒が主体的に活動に取り組む姿がみられた。</li> <li>あいさつ運動では、ポスター掲示や動画撮影を行い、あいさつや身だしなみなど意識できるよう考えた。今年度は、佐和駅でのあいさつ運動を行うこともできた。</li> <li>年度末には来年度の活動方針を検討する。</li> </ul>
		「あいさつ強化週間」を位置付け、マナーアップ週間と同様に生徒会を中心にあいさつ運動を行う。年度末には、活動内容などを見直しをする。	1-②③	B		

自立活動	児童生徒の障害の困難さに応じた自立活動の指導の充実・改善に努める	セラピスト等学校訪問事業にかかわる研修会を企画・運営し、外部専門家の活用および連携を図る。また、外部専門家の助言を参考にしながら、教育的視点にかえて児童生徒の学習や生活の支援に生かせるようにする。	1-⑤ 2-④ 3-①	B	B	・第1回目のセラピスト研修会においては、感染症対策としてオンラインで対応した。今年度は、小学部から高等部までの児童生徒に対して助言を頂き、それを基にそれぞれの担当職員が児童生徒の困難となっているところの支援に活かすことができた。児童生徒の選出方法は、その都度確認しながら進める必要がある。
	総合的な学習の時間	児童生徒の将来の自立と社会参加を目指すために、系統的・段階的な指導方法について検討し、授業や年間指導計画の改善に努める。	新学習指導要領に基づき、「わかりやすい」「やってみよう」授業づくりを行うための学習内容を検討する。児童生徒の社会参加を目指すために、交流学習などの体験的な学習・就業体験などの社会体験などを各部で実施できるよう、関係各所と連携を図る。	1-①②④ 2-⑥ 3-②	B	・新型コロナウイルス感染防止対策として、年間計画内の校外での仕事体験を外注校内作業に変更するなどして対応することができた。 ・各部の授業実践について情報交換を行うことで、系統性について検討し授業内容や次年度の年間指導計画の見直しに反映させることができた。
教務部	児童生徒の「学びたい」を育てるために各部、校務分掌部と連携し、「明日も学校にいききたい」と児童生徒と教職員の笑顔があふれる安全で安心な学校の具現化に努める。	各部、学習指導部、研究研修部、進路指導部、情報教育係等と連携し、児童生徒が主体的・協働的に取り組み、個別の指導計画目標達成に向けた授業づくり（言える化・見える化・わかる化）を推進する。	1-①②③④ 2-⑥ 3-①	B	B	
		各部、分掌部と連携し、心と身体の安全・安心の実現を目指し、環境（気づける・防げる・守れる・認め合える）づくりを推進する。	2-①②③⑤	B		
		連絡や資料提示など、情報機器の有効活用による見える化・わかる化を目指し、業務の効率化を推進する。	1-③ 2-④⑤	B		
		各部、分掌部と連携し、ホームページ等の新企画や更新を行い魅力ある学校の見える化・わかる化を推進する。	2-④	A		
教育支援部	各部・学年と連携を図り、校内の児童生徒への支援を充実させるとともに、交流及び共同学習の推進に努める。	教育相談係、ケース会議、校内研修等を活用し、他分掌とも連携して、児童生徒および教職員を支援する。	2-①④⑥	B	B	・校内児童生徒の支援方法について学年の職員と相談を行った。係内で支援体制を再度検討し係内での連携を図れるようにしたい。 ・居住地校交流は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施を見送った児童もいたが、小学部3名の児童が実施できた。学校間交流は、オンラインやビデオ交換など、ICTを活用した交流を実施することができた。 ・体験入学や学校見学、授業体験などを通して本校の理解啓発につながった。また、巡回相談で教職員向けの研修会を行い、特別支援教育について理解を深めることができたと思う。
		交流を行う児童生徒への学校における合理的配慮を交流相手に伝え、交流内容を十分に検討し、学校間交流・居住地校交流を互いに充実した交流にする。	3-⑤	B		
		特別支援学校の専門性を生かした地域のセンターとしての役割を充実させ、特別支援教育の推進に努める。	教育相談、学校見学、体験入学、学校公開等を通して、校外の保護者および教職員に、知的障害特別支援学校等の情報を提供し、適正な就学を促せるよう、内容や方法を工夫する。	2-⑥ 3-④		
研究研修部	児童・生徒の個別の指導計画における目標達成のため、アクティブラーニングを主軸とした授業づくりの検討を行う。	巡回相談や関係機関への事業協力等の地域支援で、支援対象となる学校等・機関の職員の方たちと役割分担しながら、児童生徒への支援をともに考える。	3-④	B	B	・年間2回の外部専門家による講演会を実施した。実際に行った授業実践をもとに、より主体的・対話的で深い学びができる授業にするためのアドバイスを受けた。訪問教育部は、理学療法士を外部専門家とし、実態把握や授業改善に関する研修をした。
		「主体的」、「対話的」、「深い学び」の3点をポイントにすることで、アクティブラーニングを主軸とした授業づくりができるようにする。	1-①②③④⑤ 2-④	A		
			1-①②	B		

学習指導部	学習指導要領の育成を目指す資質・能力の三つの柱を軸とした授業づくり、実践を行う。	三つの柱を軸とした年間指導計画、また、ICTを活用しながら授業づくりをすることで、児童生徒の学習の成果につなげる。	1-①③ 3-①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画、学習指導要領を基にして、計画的に授業づくりができた。また、タブレット端末や電子黒板を利用して、児童生徒の興味関心を高め授業づくりができた。</li> <li>・生活科は、計画にそって授業づくりができた。</li> <li>・備品の管理、処分品の再確認をし、帳簿の整理や処分の手配を行うことができた。</li> </ul>
		小学部に新設した「生活科」の実施においては、年間指導計画の目的に沿って授業を行い、単元（題材）や学習内容についてさらに検討していく。	1-①② 3-①	A		
		各教科における教材・教具を整理し、備品等の適切な管理に努める。	2-③⑤	A		
生徒指導部	児童生徒の安全・安心に向けて、生徒指導上の諸課題に対して、校内の共通理解を図るための規則等を整備・構築し、一貫した指導に努める。	児童生徒の自己実現を図るための生徒指導の在り方について研究し、適切な生徒指導を実践する。	1-⑤ 2-①②⑥ 3-②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学生を対象に学校生活アンケートを実施した。今後は、登校が安定しない児童生徒に対するアンケート調査の在り方を検討する。</li> <li>・近隣の中学校、県立高等学校と連携し、2年ぶりに佐和駅前できわやかマナーアップあいさつ運動を実施した。地域の中で交流を深める活動が継続できるよう、状況に応じた感染予防対策を構築する。</li> <li>・バス通学（自主通学含む）及び自力通学において、今年度大きな事故はない。スクールバスの急な運行経路変更など、緊急時対応の役割分担を明確にしておく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で大会の中止が相次いでいる。部活動に対する生徒の意欲を維持するための校内記録会や展示会などを検討する。</li> </ul>
		学校事故等の未然防止を図るため、環境整備や校内規程等を構築する。	1-⑤ 2-①②③	B		
		生徒会を中心にマナーアップ運動を行い、校内及び近隣地域と連携し、今の生活様式に適した活動を展開する。	1-②③④ 2-①②⑥ 3-②⑤	A		
		通学における児童生徒の実態把握を行い、事故等の未然防止と適切な緊急時の対応に努める。	1-④⑤ 2-①②③ 3-②	B		
		生徒が主体的に活動できる部活動の推進を図り、将来の余暇活動に役立てる。	1-②④ 2-①②⑥ 3-①②③	B		
進路指導部	将来の自立と社会参加に向けて、小学部段階からの段階的・系統的な進路学習の実践に努める。	各部での体験学習や高等部の実習など、本物に触れる機会を設定することで、児童、生徒が主体的・協働的に学習できるようにする。また、個に応じた進路指導ができるように、時期や期間にとらわれず実態に応じて実習を実施する。	1-①② 3-①③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部の職場体験は、新型コロナウイルス感染症の影響から校内で外注作業を行った。</li> <li>・小、中、高の段階で意識してほしいことを進路係で共有し、各部の授業などの参考にできるようにした。</li> <li>・進路講演会は実施できなかったが、高等部の学年会等で進路に関する情報を伝達した。</li> <li>・事業体系アンケートを年度始めに配付し、情報を発進した。中には、小学部の保護者から見学等の問い合わせがあり、進路について意識する機会になった。</li> </ul>
		個別の指導計画に基づき、キャリア発達を促す進路指導について、各部での役割と学習内容について整理し、系統的な進路指導を行う。また、社会の変化に対応できるよう学習内容を検討する。	3-①②③	B		
		進路指導に関して、教員の専門性の向上を図るとともに、進路に関する情報の発信の充実に努め、家庭、地域、関係機関と連携した進路指導の充実に努める。	1-⑤ 2-④	B		
	児童生徒や保護者が将来のイメージがもてるよう、情報発信に努め自立と社会参加に向け大切なことへの理解を促す。また、地域資源の活用や関係機関と連携を積極的に行う。	1-②③④ 3-①②③	A			
	関係機関との連携を図り、児童生徒が自らの健康課題に主体的に向き合い、改善に向けて取り組むことができるよう、体制の整備に努める。	校医や学校薬剤師と連携を図り、感染症対策のテーマに沿った内容を検討し、児童生徒が主体的に参加できる学校保健委員会の運営に取り組む。	2-①⑥ 3-②	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会の開催について、新型コロナウイルス感染症の動向によってはオンライン等対応をしていく必要がある。</li> <li>・避難訓練を毎月行っているため、避難行動はとれている反面、防災意識への希薄化が見られる。避難訓練については実施すべき訓練を精選する、すべての訓練を非通知で行うなど工夫が必要。</li> <li>・安全点検表の効率化を図りGoogleformsで報告を検討中。</li> </ul>	

保健安全部		生活リズムを整え、生活習慣病予防につなげていけるよう、児童生徒の実態を考慮した保健体育等の授業におけるがん教育の実践に向け、内容や実施時期等について検討し、年間指導計画に位置付け、実施する。	1-②④ 2-①⑥ 3-①	B	B	
	災害安全、生活安全、交通安全に関する内容を関連づけ、児童生徒の対応力の向上を図るための安全教育の在り方について検討を行う。	児童生徒が自分の命を守ることを意識しながら学校生活を送るため、随時情報を収集しながら、感染症予防の徹底のためのポイントについて教職員間で周知を図り、具体的な取り組みを提示していく。	1-④ 2-①②	A		
		災害発生時において、児童生徒の主体的な行動を促せるよう、状況に応じた避難訓練や安全教育の実施方法等を計画し、実施する。	1-② 2-①⑥ 3-③	A		
		校舎内外の美化、学校環境の緑化に向け、清掃分担計画、清掃用具の点検・調整、除草作業等の運営を計画的に行う。	2-①②③	B		
渉外部	学校や関係機関、地域との連絡を密に行い、集約した情報をもとに、保護者及び児童生徒の安全安心な活動に努める。	状況に応じた会議や連絡の方法をとり、迅速な計画と案内に心がけ、PTA活動全体の運営が円滑に行えるようにする。	2-⑤	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会について、通常で実施するために、会場を分散（体育館・プレイルーム等）させたり、時間を短縮（日程を午前中のみにする等）させたりするなどの実施方法を検討する。</li> <li>・主催行事について「全員が参加できたことがとても良かった。」との反省から、今年度同様の形で実施できるか検討する。</li> </ul>
		関係分掌部や係との連携を行い、個人情報に留意し、保護者の主体的な活動となるよう、計画的に委員会活動を進める。	1-③ 2-①④	B		
		手をつなぐ育成会等、関連する外部団体からの連絡を保護者へ周知、また、取りまとめ等を行い、知識や技術の機会を増やす。	1-③ 2-①④	B		
小学部	学習指導要領に基づいた個に応じた具体的な目標を設定し、児童が主体的に考えて取り組める授業づくりに努める。	保護者との連携と実態把握を行い、具体的な目標設定と評価に努める。板書等の工夫による授業の「見える化」と指導体制の改善により、児童が主体的に考えて取り組めるようにする。タブレット端末の活用と個に応じた教材教具の作成に努める。	1-①②③④⑤	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の改善等やタブレット端末の積極的活用により見える化が進み、個に応じた教材教具の作成にも努めた。児童が自ら考えて取り組む授業づくりを進めることができた。次年度は、より実態に応じて主体的に取り組める授業づくりを目指していく。</li> <li>・オンラインで集会、児童同士の発表、授業や交流を行うことができた。消毒の徹底等、安心安全な環境整備を行うことができた。次年度もICT活用については、引き続き研修に努めていく。</li> <li>・生活科や日常生活の指導を中心に、社会生活に必要な事柄の指導に取り組むことができた。次年度は、生活科の年間指導計画を見直し、より充実した学習ができるようにする。</li> </ul>
	ICTを積極的に活用した学習活動や部内業務を推進するとともに、安全安心な環境整備を行う。	タブレット端末の授業への積極的活用をする。児童が安心して楽しく学校生活が送れるよう、笑顔でのコミュニケーションを絶やさず、正しい言語環境を整える。安全で清潔な教室環境づくりのための日々の清掃や点検を徹底する。ICTの活用により部内業務の効率化を図る。	1-③④⑤ 2-①②③④⑤⑥	A		
	遊びや集団活動を充実させ、発達段階に応じて社会の仕組やきまり・マナーなど、社会生活に必要な事柄の指導の充実を図る。	遊びや集団活動とおして、人のかかわり方や集団の中のきまり・マナーの指導・支援の充実を図る。現在の生活や将来の社会参加を見据えた生活にかかわる内容を精選し、発達段階に応じて社会の仕組（公共機関、仕事や役割、金銭等）がわかる指導の充実を図る。	2-②③⑥ 3-①②⑤	A		
小1年	基本的生活習慣の確立を目指すとともに、児童一人一人の興味関心と教育的ニーズを踏まえた授業を実践することで、学習への意欲を高め、主体的に学校生活を送ることができるようにする。	連絡帳や個別面談などにより基本的生活習慣や心身の状況を把握し、個々の課題を明確にする。また、個に応じた支援を行うことで、自分でできることを増やすとともに、自分でやろうとする心性を育てる。	1-①②④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活に慣れると身辺処理や係活動に進んで取り組む姿が見られた。児童による実態差が負い置き痛め、段階的なステップアップと支援の継続については今後も課題である。</li> <li>・児童の興味関心に合う教材作りの工夫で、児童がよく見る、聞く、繰り返し挑戦するといった主体的に学ぶ姿勢を引き出すことができた。</li> <li>・集団生活の基本的ルールを学習し、学校を児童にとって安心安全であり、おおむね楽しく通うことができる場にすることができた。</li> </ul>
		ICTの活用や児童の興味関心に即した教材や支援を取り入れることで、主体的に学習する態度を引き出し、授業の中で「できた」「わかった」など学ぶ意欲につながる達成感を味わうことができるようにする。	1-②③④⑤ 3-①	B		
		学校生活の中で、友達や教師とかかわる楽しさや伝わる喜びを感じ取ることができるようにするとともに、基本的なルールやマナーを学習活動に取り入れることで、安心安全な学校生活、社会生活を送ることができる力を育てる。	1-① 2-①②⑥	B		

小2年	基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を展開することで、様々な学習活動や人との関わりへの興味・関心を高め、自主的・自発的に行動しようとする意欲を育てる。	教材や板書を工夫し、わかりやすい授業を展開することで、学びたい意欲や達成感等の喜びを味わえるようにする。挑戦する気持ちや相手を意識できる力を引き出せるよう、児童同士が協力したり、集団で行ったりする活動を設定する。	1-①②③④⑤ 2-② 3-①②⑤	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材や板書等を工夫し、実態に応じた授業を展開することで、児童自らが自主的・自発的に学習することができた。できるだけ教師の支援を少なくし、児童同士のかかわりを大切にした学習の場をもつことができた。</li> <li>・保護者との連携については、今後も、児童の課題を見極めながら各々の立場でできる支援を考え、実勢していく。</li> <li>・居住地校交流希望者3名のうち、2名は少なくとも1回実施した。もう一名は、コロナ感染症の影響で、3学期に実施予定である。</li> </ul>
		保護者と連絡帳や面談をとおして情報交換を行うとともに、個別の指導計画について共通理解を図り、個に応じた支援を行う。身の回りの清潔や整理整頓の励行を行うとともに、言葉かけの内容やタイミング等に配慮し、安心、安全な学校生活を送ることができるようになる。	2-①②③⑥	B		
		学習活動や行事等で様々な人と触れ合う中で、人とかかわる楽しさやコミュニケーション能力・社会参加の基礎の育成を図る。児童の実態や保護者の希望に寄り添いながら、居住地校交流を計画的に実施する。	1-④ 2-①② 3-②⑤	B		
小3年	キャリア発達を促すための個に応じた教育活動の実践を通して、基本的な生活習慣の確立やコミュニケーション能力の育成を目指すと共に、「わかる」「できる」「たのしい」授業づくりに努める。	学習活動では最後に振り返りを行い、目標に対して「できた」という達成感を得られる機会を増やし、自己肯定感を高める。連絡帳や面談をとおして、保護者との連携を図り、学年間で情報を共有し、同じ支援を行うことができるようにする。	1-①②③④⑤ 2-⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動の最後に何を学んだかの振り返りを行い「できた」という達成感を得ることができた。学習内容の理解も深めることができた。</li> <li>・保護者への連絡を丁寧に行い学年内での情報共有を図り、同じ支援を行うことができた。支援会議を開き、共通理解を図った。</li> <li>・ICTの活用積極的に取り組むことができた。児童も主体的に取り組むことができた。</li> <li>「わかる」「たのしい」につなげることができた。</li> <li>・基本的な生活習慣の確立では、自分でできることは見守りできそうなところを目標に支援した。自分でできることの喜びを得ながら取り組ませることができた。</li> <li>・不適切なかわりがあった時など「今の態度は、どうだったのかな。」と考える場面を設定し人とのかわりについて学ぶことができた。</li> </ul>
		一人一人の児童の学習課題に応じて、「できる」「わかる」「たのしい」という達成感のもてる教材を工夫する。また、タブレット端末を効果的に活用し、分かりやすい授業作りに取り組む。安心・安全な学校生活が送れるように、環境を整備する。感染症対策を徹底して行う。	1-②③④ 2-①③	B		
		基本的な生活習慣の確立では、できていることを定着させ、自分から気が付いてできるよう言葉かけをしていく。学習活動の中で、人との適切な関わり方や約束、マナーについて知ることを通して、社会参加の基礎を養う。	2-①③ 3-①②	B		
小4年	児童一人一人の発達段階や個に応じた教育活動を実践することで、「わかる」「できる」ための授業づくりに努めるとともに、集団活動の中で自主的にコミュニケーションを図ろうという意欲を高める。	保護者との連携を密にし、実態把握を十分に行った上で、発達段階に応じた指導方法の実践に努める。学年の教員全員で児童一人一人の実態や指導目標、支援方法について情報を共有する。	1-①②③④⑤ 2-② 3-②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳や面談等を通して保護者と連携を図り、要望等が挙げた場合は、学年の教員全員で考えた。聴覚障害のある児童への支援方法を学年で統一し、より児童の実態に合った支援を行うことが課題である。</li> <li>・タブレット端末を活用した授業や、実物を用いた授業を行った。タブレット端末の活用方法を学び実践することが必要である。</li> <li>・授業の中で話し合いの時間を設けた。児童が自分なりの方法で意思を伝えるツールを増やし、児童が伝わったと喜びを感じられるような工夫や話し合いの場をより多く設定することが課題である。</li> </ul>
		タブレット端末を活用し、見通しのもてる授業づくり、「わかった」「できた」と実感できる教材教具づくり、達成感や成就感を味わうことのできる評価方法の工夫に努める。児童が安心、安全に学校生活を送れるような環境の整備に努める。	1-①②③ 2-①③ 3-①②	B		
		集団活動の中で話し合い活動の機会を作り、児童一人一人が自分なりの方法で意思を伝えたり、伝わる喜びを感じたりできる環境を設定する。また、集団の中できまりやルール、人とのかわり方を意識して活動できる力の育成に努める。	2-⑥ 3-①⑤	B		
児童が自ら考え、自ら学びに向かえるよう、一人一人のニーズや発達段階を加味した教育活動を実践する。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりに努め、児童同士が共に学び、向上し合える資質や能力の育成を目指す。	保護者との情報交換や共通理解に努めたり、学年の教員間で、児童一人一人の実態や指導目標、支援方法について情報を共有したりして、一貫した指導、支援に努める。	1-②④⑤ 2-⑥ 3-①	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会等で、児童の実態や指導方法、授業で身に付けさせたい力などを頻りに情報交換した。学年の教員同士が共通理解を図りながら、指導にあたることができた。</li> </ul>		

小5年		児童の意欲を引き出し、主体的に学習する態度を養ったりするため、ICT機器など、児童の実態や興味関心に沿った教材教具を積極的に活用する。また、児童のやる気を引き出せるような、場の設定や言葉かけ、わかりやすい評価に努める。	1-①②③ 2-② 3-①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業がワンパターンにならないよう、タブレット端末やPPの活用、時には体験的な活動、ロールプレイ的な学習などを工夫して取り入れるようにした。児童が主体的に学習に臨めるような言葉かけや、場の設定、達成感や自己肯定感が高まるような評価（ワークシートやチェックシートなど）を意識した。</li> <li>・好ましいコミュニケーションがとれるよう、道徳や自立活動などで重点的に学習を行ったり、日々の指導に努めた。思春期を迎える児童への働きかけやかかわりについて我々教員がさらに専門的な知識を身に付け、メリハリのある指導を今後さらに心掛けることが必要である。</li> </ul>
		集団活動の中で、相手を認めたり、相手の気持ちを考えながらよりよいコミュニケーションを図ることができるよう、手本を示したり、共に考えたりする学習や場面の設定を意識して取り入れる。	1-②⑤ 2-②⑥ 3-①②	B		
小6年	児童一人一人が自分で考え、判断し、行動できるよう発達段階や特性に応じた教育活動を実践する。キャリア発達の視点に立ち、場や相手に応じた適切なコミュニケーション能力を培うとともに、役割意識や自発的な活動への意欲を育てる。	係活動や学習活動において、働くことへの関心を高め、自分の役割に主体性と責任感をもって取り組めるために、目標や頑張りを見視覚的にわかるように工夫する。	1-①③④⑤ 2-②③ 3-①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張り表や、分担表などを担当者が作成し掲示したり自分達で記入することで、目標が明確になり意識して取り組むことができた。</li> <li>・教員間で指導の方針を話し合い、見守ったり、個別に指導したりして、問題行動を少なくすることができた。</li> <li>・コミュニケーションが難しい児童も多いが、できる児童には言葉遣いや挨拶の仕方などについて、もっと適切な指導をする必要があった。挨拶や適切な応対をできない児童への指導が課題である。</li> </ul>
		児童が、自分で考え、判断し、行動しようとする意識を向上させることができるように、個別の指導計画や発達段階に応じた適切な言葉かけを行う。また、教員間の共通理解や保護者との連携を図る。	1-①②③④⑤ 2-②④⑥ 3-①	B		
		学校生活全体の中で、友達に対する言葉遣いと目上の人に対する言葉遣いの違いを知り、相手に応じた適切なコミュニケーション方法を身に付ける。	1-②④⑤ 2-①②③⑥ 3-②③	B		
中学部	生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、学習の成果を自分から発揮できる力を育てる。	生徒と向き合う姿勢の徹底と教員間の連携により、丁寧な実態把握を行い、生徒一人一人に応じたわかりやすい、動きやすい、取り組みやすい授業展開とICTを積極的に活用した授業実践に努める。	1-①②③④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人に応じたICT機器の活用により、発表の仕方や調べ学習のまとめ方など表現方法が広がった。教職員のスキルアップが課題である。</li> <li>・6校時「職・家」の内容を明確にしたり、生徒の言葉や様子に傾聴する姿勢を整えたりすることで、安全・安心な環境が整った。掲示物の不備が目立ち掲示物の管理が課題である。</li> <li>・生徒会を中心に、あいさつ運動を行ったり、学習に取り入れたりすることで将来必要な態度等を考える機会を設けることができた。定着するために継続できる環境設定が課題である。</li> </ul>
	安全で安心できる教育環境のもと、生徒が主体的に活動できる力を育てる。	生徒が安全・安心できる教育環境を整えるために、日々の清掃や点検の徹底と肯定的な思考・言葉による支援体制づくりに努める。	2-①②③⑥	B		
	学習活動や体験活動とおして、将来の自分について考える力や学ぶ力を育てる。	日々の学習活動や体験活動とおして、「あいさつ・返事・時間を守る」ことや場面に応じた言葉遣い・態度など社会生活に必要な基礎的態度を主体的・協働的に学び、社会性を高めるための支援・指導の充実を図る。	2-⑥ 3-①②③⑤	B		
中1年	小学部（小学校）段階で培ってきた学習の成果を様々な場面で生かし、社会生活に必要な基礎的態度を育成するために、生徒一人一人が主体的に活動できる指導・支援の実践に努める。	「わかる」「できた」を実感できるように、生徒一人一人の実態把握を細やかにを行い、適切な支援内容や方法を工夫する。	1-①②③④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に応じたワークシートの作成やICT機器の活用などを行い「わかる」「できた」を実感することができた。</li> <li>・教師間で生徒とのコミュニケーションの取り方などの共通理解を図る時間を設け、生徒個々に応じた支援の仕方について意識を高め体制を作ることができた。</li> <li>・「自分について知ろう」の単元で、今の自分を見つめたり、将来について考えたりすることができた。</li> </ul>
		生徒が安心して、主体的に活動することができるように、肯定的な態度や言葉で支援する体制づくりに努める。	1-④ 2-①②⑥	B		
		総合的な学習の時間で、今までの自分を振り返ったり、今の自分について考えたりすることで、自分の長所や得意なことなどを知り、将来になりたい自分や進路について考える時間を設け、関心を高める。	3-①③	B		
中2年	授業のユニバーサルデザイン化をすすめ主体的・能動的に活動できる支援を充実し、社会生活に必要な基本的な態度の育成に努める。	授業づくりの視点(授業構成、教材・教具、板書・ワークシート、話し方)を共有し、すべての生徒が「わかった」「できた」で終わる授業を提供する。	1-①②③④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業作りでは、生徒たちが初めは難しそうと思う内容であっても、導入や教材教具・ワークシートなどで何をどのように行うかを明確にすることで、最後には「できた！」と自信をもてる授業を行うことができた。</li> <li>・互いを認めること、あいさつや自分のことを自分で行う主体性が身に付いてきた。</li> <li>・進路学習で自分と向き合う時間を設定したことで自分の進路を考えることができた。</li> </ul>
		肯定的な態度や言語環境を整え、あいさつや身辺整理等、主体的に活動し、社会生活に必要な資質能力が定着できるよう指導及び支援をする。	1-②④ 2-①②③	B		

		総合的な学習の時間で進路学習に取り組み、卒業生の進路先の見学や職場体験と校内作業実習をとおして、自分の進路について考える時間を設け、関心を高める。	1-① 3-①②③	B			
中3年	学習内容・環境の構造化をすすめわかりやすい授業の提供に努めることで、生徒達が自主的協同的に学習できるようにし、社会変化を柔軟に受け止め、社会参加への意欲・知識・技能が高められる指導・支援の実践を推進する。	学習上の困難さを、障害特性に起因する情報処理や思考のプロセスの特異性など多面的に分析し、ICT機器の利用など生徒一人一人に最適化した学習環境の提供に努め、わかりやすい、取り組みやすい授業づくりをする。	1-①②③④⑤	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業作りではタブレット端末を利用して、手順などをスライドや動画を生徒自身が操作できるようにすることで、「わかりやすく、取り組みやすい」授業を提供することができた。</li> <li>・学習の集団編成や学習場所、生徒の出欠状況、職員体制など随時共通理解を図り、緊急時の生徒掌握にスムーズに移行できるように心がけた。</li> <li>・感染症拡大防止のため、校外での活動の実施を見送ったが、校内に模擬職場を設定するなどして、社会参加への意欲、知識、技能が高められるように心がけた。</li> </ul>	
		日課を分析し、指導場面・態勢の把握に努めるとともに、生徒の動線上の整理に取り組み、突発的事象にも即応できる体制づくりに努める。	1-② 2-①③	B			
		総合的な学習の時間や作業学習等の実践的な学習を通して、職業生活や家庭生活など将来の自己像を描けるようにする。これから自分の取り組む課題を意識し、社会のルールを理解、自分の考えを表現する力等、自立と社会参加に向けた指導を行う。	1-②④ 2-① 3-①②	B			
高等部	個に応じた学習指導・支援の充実と「わかる・できる」ことで自ら取り組むことができる授業づくりに努める。	生徒一人一人の実態に応じた教科学習活動の充実や学習形態の工夫を行う。またICTの積極的な活用により、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。各教科間の目標や内容、つながりを明確にした学習計画の立案と実践を行う。	1-①②③④⑤ 3-①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に応じて柔軟にグルーピングを行い、目標設定や学習内容の工夫をしたことにより、個に応じた学習を充実させることができた。</li> <li>・ipadや電子黒板の活用により、生徒が主体的に学習する場面が増えた。</li> <li>・教科間のつながりや系統性をもたせた学習計画については今後の課題である。</li> <li>・日数や時間、作業内容など個に応じて配慮を行うことで、多くの生徒が現場実習や職場体験などの働く経験を増やすことができた。</li> <li>・社会人講師の活用や日々の学習活動を通して、個々の技能を高め、アビリンピックでは良い結果を残すことができた。</li> <li>・校内実習、体育祭など学年・学級を超えた学習活動の中でも、一人一人が自分の役割を果たし、交流を持ちながら学校生活を送ることができた。</li> </ul>	
		個に応じた働く経験の充実に努め、主体的な社会参加の意欲を高める。	現場・校内実習、職場体験等において、本人の実態や家庭環境に配慮したより個に応じた働く経験の充実に努める。また、社会人講師の活用やアビリンピック、部活動など得意なことや適性に応じた知識・技能を高める実践的な取り組みを行う。	2-⑥ 3-②③			A
		安心・安全な学習環境の中で、お互いの良さを認めあう心を育成する。	日々の清掃や整理整頓をとおして、安心して学習に取り組める環境を整備する。また、学部、学年学級、コース等様々な学習集団の中で、生徒が責任をもって役割を果たし、相手の良さを認めあう心を育成する。	2-①②③ ⑥			B
高1年	一人一人が、社会人になるために必要な基礎的な態度と技能を知り、全ての学習の中で個々の目標に向かって取り組むことができる学習を実践する。 一人一人が、自分の得意なことや適性をより多く引き出すことができる指導・支援の拡充を図る。 一人一人が、他者とのつながりや人間関係の中で、自分の役割を果たす大切さに気付く心と態度を育てる。	社会人になるために必要な基礎的な態度と技能を個に応じて確認し、全ての学習につなぐをもち、個別の目標を達成できる学習を実践する。	1-①②③④⑤	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年計に沿って学習を展開することで全教科の学習のつながりがもて個別の目標を達成できるような学習を概ね実践することができた。</li> <li>・感染症対策のため学年を超えた学習の場の設定することは難しかったが、各々の生徒の目標に沿った学習の場を展開することができた。</li> <li>・学習以外の生活の場面でも、教員全員が生徒同士のつながりや互いを認める気持ちを大切に支援に努めることができた。今後はその気持ちが行動で表現できるよう支援を充実させたい。</li> </ul>	
		学年・学級を超えた学習内容と場の設定により、生徒が自ら得意なことや適性に気付き社会で生きていく中で活用できる学習の場を展開する。	2-⑥ 3-①②④	B			
		学校生活と家庭生活の両面から、自分の役割を考え、教師や家族と協働する中で、つながりや互いを認める気持ちを大切にすることと態度を育てる指導・支援の充実を図る。	2-①②③	B			
高2年	主体的に学習に取り組み、達成感や充実感を味わう生徒を育てる。 高等部卒業後の生活を見据え、将来の自立に必要な資質能力を身に付ける生徒を育てる。 自他のよさを生かしながら、多様な他者と協働して問題解決を図る力を育成する。	活動内容や環境を調整し、見通しをもって学習活動に参加できるようにするとともに、ICTの活用をはじめ、個に応じた指導及び支援の充実を図り、生徒が「わかる」「できる」授業を行う。	1-①②③④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的、対話的な学びを充実させることを課題とする。生徒自身がタブレット端末を活用して課題解決する学習、教師や他の生徒との対話や共同作業を通して学びを深めていくような学習を推進する。</li> <li>・学校、家庭、企業や福祉施設が生徒の課題や目標について共通理解をするとともに、その内容を個別の指導計画等に反映し指導する。</li> <li>・他者の多様な考えに触れたり、協働して課題解決を図る場面を設定する。そのためにオンライン会議システム等の有効活用を検討する。</li> </ul>	
		作業学習や校外の実習等の経験を通し、働く喜びややりがい実感したり、自分の目標や課題を捉えられるようにする。また、あいさつや身辺整理等、社会生活に必要な資質能力が定着できるよう指導及び支援をする。	2-②⑥ 3-①②③	B			

		学校生活全体を通し、自己肯定感や自己有用感が高められるようにするとともに、他者とかかわる中で、生徒が自己理解を深めたり社会性を身に付けたりすることができるよう指導及び支援をする。	1-④ 2-①⑥ 3-②⑤	B		
高3年	主体的に自らの課題を考え、目標を達成しようとする力を育てる。 卒業後の進路決定に向けて、仕事に対する姿勢や知識・理解・技能など自分の力を発揮し挑戦し続ける態度を育てる。 友達と協力して役割を果たし、感謝の気持ちを伝えられる力を育てる。	現在の自分の生活を振り返り、自分の今の課題について考えられるような授業内容を工夫し目標を決める。冷静に判断ができるように、動画等で自分の普段の行動を振り返り反省ができるようにする。社会人になった自分を具体的に想像し、将来の職業生活に対して希望をもち、目標をもって主体的に取り組むことができるような学習を展開する。	1-①②③④⑤ 2-⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題については、時間をかけて自分自身を振り返り、動画でも行動を振り返った。</li> <li>授業では、説明を聞いて見て確かめられる工夫をすることで、自信をもって理科の実験ができるようにした。</li> <li>主体的に取り組む学習展開については今後も検討していく必要がある。</li> <li>家庭訪問、電話での連絡、連絡帳など実態に応じて保護者との連携を密にし、指導・支援に役立てた。</li> <li>関係機関とは、相談支援専門員と卒業後の生活について保護者も含め話し合いをした。</li> <li>色々な教科・学習で共通して人とのつながる経験を積み重ね感謝の気持ちを伝えられるよう共通して指導してきた。感謝の気持ちについては、生活全般において意識させることが課題である。</li> </ul>
		学校生活全般において、家庭や関係機関との連絡を密にし、卒業後も継続して生徒一人一人が得意な力を発揮し、積極的に生活しようとする態度を育成する指導・支援の充実を図る。	1-④⑤ 2-②⑥ 3-②⑤	B		
		校外の様々な人とかかわる学習活動を通し、人の役に立つ喜びや人とのつながりを感じる経験を積み重ね、感謝の気持ちを伝えられるような指導・支援をする。	2-②③⑤ 3-①②	B		
訪問教育	児童生徒が自分から気持ちを出出できるように、学習内容や指導方法の工夫に努める。	児童生徒の実態の把握に努め、生活年齢や発達段階に応じた学習内容や指導方法の研究研修を進めるとともに、授業実践に向けた教材・教具の開発や扱い方の工夫に努める。 安定した姿勢での活動により、自分の感情や意思を自主的に表情や発声、身体の動きで表出できる授業づくりに取り組む。	1-①②③⑤ 2-①②④⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の観察や記録をもとに、児童生徒一人一人の実態把握に努めた。個々の授業反省や改善をし、教材・教具の用い方の工夫、新たな教材・教具作りなどの研究研修を進めたことで、児童生徒が自分から気持ちを表出する場面が多く見られた。課題は身体の動きに関する学習について研修を深める必要がある。</li> <li>感染症対策で行事やスクーリングが実施できなかったためタブレット端末を活用し、自己紹介や活動の様子動画を本校の当該学年の児童生徒に視聴してもらい交流を図るように努めた。全学年ではないが、動画での交流が実施できた。今後も訪問教育のアピールに努め、協力依頼が課題となる。</li> <li>在宅では、感染症対策を行い遠足や校外学習をととして、地域の人とかかわりをもつことができた。</li> <li>茨城東病院では、感染症対策をとった授業計画で院外学習を実施できた。看護師の協力のもと少人数で外に出かけ季節を感じることもできた。</li> <li>2学期は授業再開までの間、病院関係者の協力で作成したYouTube動画を児童生徒が視聴することができた。在宅の児童生徒は電話でのやりとりや課題を作成し情報を把握できた。更にネット環境があるとよい。</li> <li>授業実践から児童生徒とのかかわりをもち関係性を深め、児童生徒が伝えようとする気持ちの表出に気付き、見取り、児童生徒の一人一人の意欲を高められるように努めた。</li> </ul>
	体験的な学習活動をととして、本物に触れる学習の充実と社会性の育成に努める。	行事やスクーリングまたは、タブレット端末を活用工夫し、当該学部学年の児童生徒との交流を実施し、雰囲気を感じながらかかわりをもつ機会を設定する。 実物に触れたり、身体で感じたり、季節を感じたりすることができる教材・教具や学習内容を準備し、体験的な学習活動の充実を図り、授業実践に努める。 遠足や個に応じた校外学習を実施し、公共の施設等の利用を通して、関係諸機関や地域の人々とかかわりをもつことで、社会性の育成に努める。(在宅) 戸外活動や集団学習、病院関係者とかかわりを通して、社会性の育成に努める。(茨城東病院)	1-②③④ 2-①②⑥ 3-②⑤	B		
	健康で、安全・安心に配慮した学習支援や学習環境の充実を図る。	児童生徒にとって、心地よい経験を積み重ねていくために、保護者や病院関係者との連携を深めることにより、健康で安全・安心に配慮した教育環境の整備に努める。 児童生徒の気持ちを伝えようとする微細な表出に気付き、その感情や意思を見取り、言語化したり共感したりすることで意欲を高める。	1-②④ 2-①②③⑥ 3-①	B		

※評価基準：A：十分達成できている（90%以上） B：達成できている（80%） C：概ね達成できている（60%） D：不十分である（40%） E：できていない